

〒641-0001 和歌山県和歌山市
FAX 073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【広告問い合わせ】
【購読問い合わせ】

073(423)9291
0120-468012

12日

伊太祁曾神社(和歌山)と藤白神社(海南) 絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道

みちのくまの記

35

紀州沿岸は漁業技術 これも豊富な木材資源にすぐれた漁民や多くが造船などの産業を育の水軍を生んできた。 んだことによるもの



伊太祁曾神社(和歌山市伊太祈曾にて)

で、まさに紀伊国木ノ国である。JR和歌山駅から和歌山電鉄貴志川線に乗り、木の大神が祀られている伊太祁曾神社(和歌山市)を訪ねた。巨木に囲まれて、祭神はイタケルノミコト、配神とし

て、左脇宮にオウヤツヒメノミコト、右脇宮にツマツヒメが厳かに祀られていた。3神とも木の神様の元締・スサノオノミコトの子で、主祭神は長男、脇宮は長女、次女の順となる。

安全「魔除け」の神木になっていいるナギ(榊)の木だった。熊野詣では、道中安全を祈る神木として、懐に入れてその葉をお守り代わりにしたそう。草木に神が宿る信仰は、今のインド、ネパールのヒンドゥー教とも共通しており、うなずける。

温泉)に行幸の際に創られたといわれ、格式のある熊野王子社の一つ。境内には、子供の守り神の楠神社があり、樹齢千年の楠の巨木が神木である。病弱だった南方熊楠が藤白神社から「熊」と「楠」の2文字を授けてもらったといわれる。

の心ふれあいが接待の原点であり、施しが浄土につながる信仰へと発展していくのである。「いにしへの熊野古道参詣の動機は、難行苦行の末、歩き通した達成感で生きる勇氣をもらい、蘇るの境地になることではない」と締めくくっていた。

日本書記(巻第一)によれば、イタケルは天降るときに多くの樹種をもって下ってきた。スサノオノミコトは「日本の到るところ

が陳列されていた。人々の子神らに言いつけたので、スギ、ヒノキ、マキ、クスノキの種をと、その毅然として神に支えられたような生命力を感じ、自然との存在に気付いてほしいと願っておられる。

拝殿前の館には、木を愛する人たちのチェインソーアートの作品方には、権現堂で説法

現代人は文明の利器にとっぷり浸かり、人間本来の機能が劣化

木の神の霊とメッセージ

を青山にすべし」と3人の子神らに言いつけたので、スギ、ヒノキ、マキ、クスノキの種をと、その毅然として神に支えられたような生命力を感じ、自然との存在に気付いてほしいと願っておられる。

が陳列されていた。人のするよう努めておられる。特に古道を歩くことによって、自然に触れて「畏敬の念」を持ってほしい、自然の霊気に触れ、神、仏の存在に気付いてほしいと願っておられる。

更には、参詣道では、昔から旅する人たちに会ったら「あいさつ」を交わし、困っている人

夏木立精霊甞ます王 子跡 秦華